

たくさりくるまどうまえいせき

田鎖車堂前遺跡

現地説明会資料 平成27年11月21日(土)

●はじめに

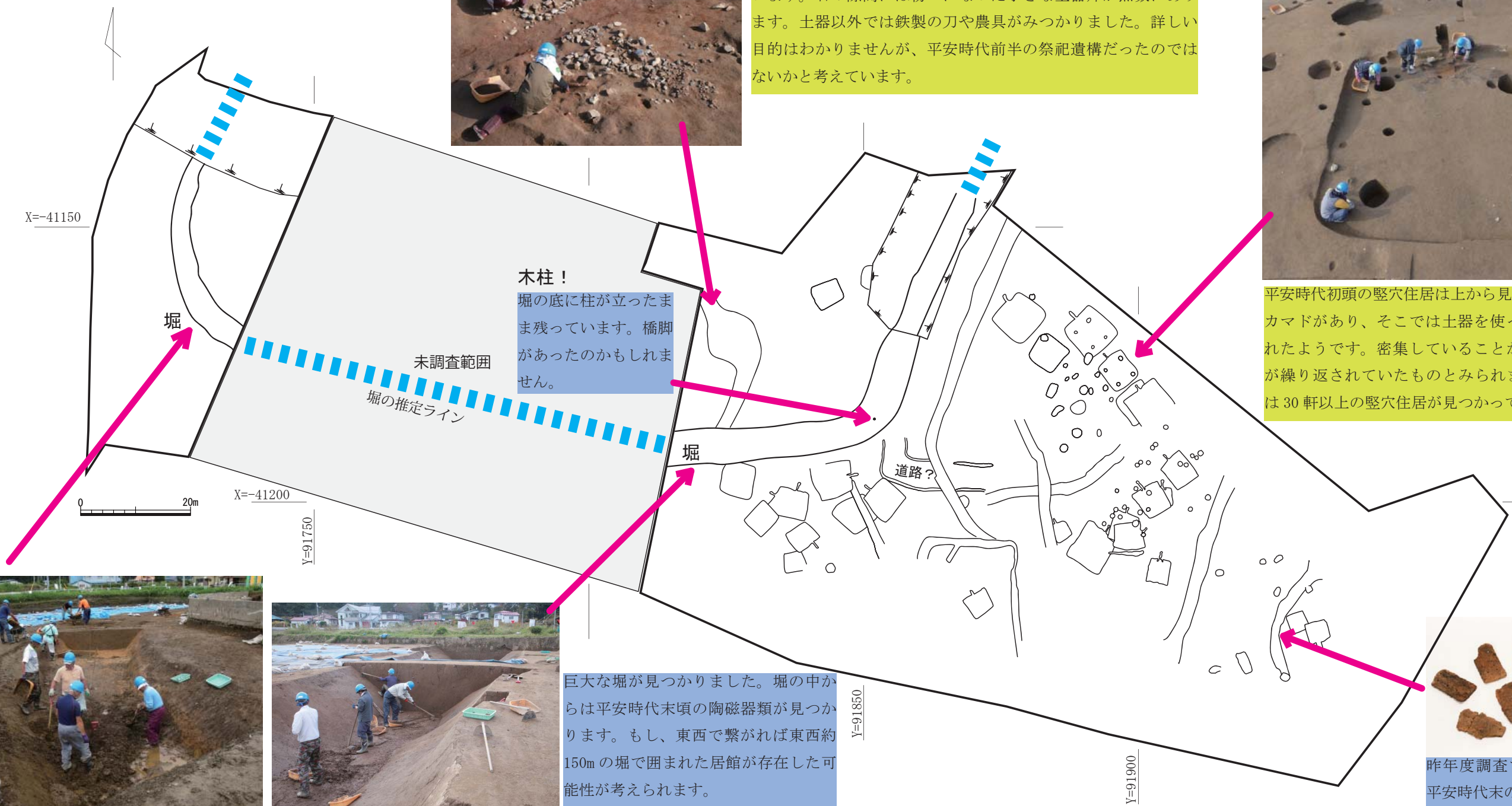
田鎖車堂前遺跡の発掘調査は、昨年度に続き今年度は4月9日から開始しました。調査は宮古西道路建設事業に伴い、遺跡が広がると思われる約10,000㎡を対象として、事業によって失われる遺跡の記録を後世に残すために行っています。昨年度からの調査で奈良時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が多く見つかりました。昨年度は平安時代末の大甕(おおよい)の小札(こざね)など珍しい遺物もみられました【右下写真】。



水が流れていたと思われる溝の一部に石がびっしりと敷かれています。石の隙間には粉々になった小さな土器片が無数にあります。土器以外では鉄製の刀や農具が見つかりました。詳しい目的はわかりませんが、平安時代前半の祭祀遺構だったのではないかと考えています。



平安時代初頭の竪穴住居は上から見ると四角い形。カマドがあり、そこでは土器を使って煮炊きが行われたようです。密集していることから立て替えなどが繰り返されていたものとみられます。この遺跡では30軒以上の竪穴住居が見つっています。



木柱!
堀の底に柱が立ったまま残っています。橋脚があったのかもしれませんが。

巨大な堀が見つかりました。堀の中からは平安時代末頃の陶磁器類が見つかります。もし、東西で繋がれば東西約150mの堀で囲まれた居館が存在した可能性が考えられます。



昨年度調査で溝から出土した平安時代末の小札。



●平安時代の田鎖車堂前遺跡

田鎖車堂前遺跡では平安時代初め頃と終わり頃の遺構・遺物が特に多くみられます。

【奈良時代・平安時代初頭の様子】 竪穴住居を主体とする集落が営まれていたことがわかりました。平面が四角形の竪穴住居は前年度と合わせると 30 軒以上存在し、比較的規模の大きな住居が多い傾向にあります。竪穴住居からは土師器・須恵器と呼ばれる土器類が多く出土しています。土器以外では土製や石製紡錘車や鉄製品なども竪穴住居から出土しています。竪穴住居以外に注目される遺構として、溝を伴う祭祀遺構が挙げられます。石が敷き詰められた一角では多くの土器細片と刀などの鉄製品が出土しました。それ以外の遺構からもこの地域で初めて出土した瓦片など珍しい遺物がみられます。

【平安時代末の様子】 幅 7 m、深さ 2 m にも達する大規模な堀がみつかりました。堀を埋めている土の中からは中国産の磁器や東海地方産の陶器などの破片が出土しています。堀は均整の取れた断面逆台形をしており、東側調査区のみならず西側調査区でもみつかりました。これらは方向・形状・規模を考えると連続する一つの堀である可能性が高いとみられます。この堀で囲まれた内部では、同時期とみられる竪穴建物が見つかり、他にも様々な性格の建物が存在する可能性が考えられます。

●まとめ

田鎖車堂前遺跡は奈良～平安時代初め 11 頃（8～9 世紀前半）を中心とする宮古地域の拠点的な集落の一つであると考えられます。その先進性は平安時代末（12 世紀）に再び花開き、平泉と関連性の強い居館が成立します。宮古地域のみならず岩手県の歴史を語る上で欠くことのできない遺跡であると言えます。

●さいごに

田鎖車堂前遺跡の発掘調査は今後も続きますが、この遺跡のさらに詳しい性格を突き止めるため慎重に調査を進めたいと思います。特に、各時代の遺構および遺物を整理し、遺跡内での遺構の変遷を明らかにする必要があります。

最後になりましたが、事業主体である宮古土木センターをはじめ宮古市教育委員会、近隣のみなさま、調査に参加していただいた作業員のみなさまには、日頃のご理解とご協力に御礼申し上げます。



←出土した中国産の「白磁」・「青磁」と「かわらけ」
◆白磁には碗・皿類と四耳壺や水注などの壺類がみられます。
青磁碗には滑らかな文様が描かれています。

→出土した「国産陶器」
◆愛知県の常滑窯産や瀬美窯産の陶器です。おもに壺・甕・鉢がみられます。太平洋を船で運ばれたものでしょう。中には宮城県の水沼窯産の甕片もみられます。

遺跡名：田鎖車堂前遺跡（たくさりくるまどうまえいせき）
所在地：岩手県宮古市田鎖第 11 地割車堂前地内
委託者：岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター
事業名：宮古西道路建設事業
面積：10,520 m²
調査者：公益財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
担当者：福島正和・宮内勝巳（千葉県教育財団埋蔵文化財センターより派遣）・光井文行・船渡耕己・箕輪匠太ほか

田鎖車堂前遺跡

岩手県遺跡年表

年代	時期区分	主な事例	主な調査遺跡	主な国・県指定遺跡
BC10000年 8000年 4000年 5000年 2000年 1800年 300年	旧石器時代 縄文時代 弥生時代	大型動物が息絶する 気候が温暖になる 土器の使用が始まる	遠野市宮守町金取遺跡 奥州市胆沢区上萩森遺跡 西和賀町（旧湯田町）大台野遺跡 久慈市山形町早坂平遺跡 岩泉町竜泉新洞遺跡 盛岡市大新町遺跡 軽米町馬場野Ⅱ遺跡 住田町蛇王洞穴遺跡 二戸市馬立Ⅰ遺跡 山田町沢田Ⅰ遺跡	
		大規模なムラができる 漆の本格的な使用が始まる	紫波町西田遺跡 花巻市大迫町観音堂遺跡・立石遺跡 盛岡市葦内遺跡	（県）大船渡市関谷洞窟 （国）遠野市綾織新田遺跡 （国）宮古市崎山貝塚 （国）一戸町御所野遺跡 （国）北上市八天遺跡
		稲作が始まり、金属器が使用される	大船渡市上鷹生遺跡 北上市九年橋遺跡 大船渡市上甲子遺跡 一関市谷起島遺跡 滝沢村湯舟沢遺跡 奥州市水沢区常盤広町遺跡 盛岡市永福寺山遺跡	（国）大船渡市大洞貝塚
		卑弥呼が邪馬台国王となる	奥州市水沢区高山遺跡 奥州市水沢区中半入遺跡 北上市猫谷地遺跡 奥州市水沢区膳性遺跡 花巻市熊堂古墳	（国）奥州市胆沢区角塚古墳 （県）矢巾町藤沢蝦夷森古墳 （国）北上市江釣子古墳群 （県）岩手町浮島古墳群
		大和朝廷が国家統一を進める 古墳が各地につくられる	宮古市長根Ⅰ遺跡	
		仏教が伝わる 聖徳太子が摂政となる 大化の改新がおこる	奥州市水沢区胆沢城跡 （国）盛岡市志波城跡 （国）矢巾町徳丹城跡 軽米町色角子久保Ⅵ遺跡 二戸市浄法寺町飛鳥台地Ⅰ遺跡 金ヶ崎町鳥海柵跡 平泉町柳の御所遺跡 奥州市衣川区接待館遺跡	
		奈良に都がつくられる	盛岡市繁Ⅲ遺跡	（国）一関市骨寺村荘園遺跡
		京都に都がつくられる 胆沢城・志波城がつくられる 各地に荘園が広がる	花巻市笹間館跡 一戸町一戸城跡 紫波町柳田館跡 久慈市久慈城跡 遠野市篠館跡	（国）奥州市衣川区長者ヶ原廃寺跡 （国）盛岡市盛岡城跡
		鎌倉幕府ができる	奥州市衣川区北館跡 紫波町栗田Ⅲ遺跡	（国）北上市・金ヶ崎町南部領伊達領境塚
		文永・弘安の役おこる 室町幕府ができる 応仁の乱がおこる	遠野市佐比内鉄鉱山跡	（国）釜石市橋野高炉跡 （県）釜石市栗林銭座跡 （国）奥州市水沢区高野長英旧宅
1200年 1400年 1600年 1800年	鎌倉時代 室町時代 安土桃山時代 江戸時代 近・現代	平泉藤原氏滅亡する 鎖国が始まる 開国がおこなわれる 明治維新		